

第14話 アルワリアとスーベラ

アルワリアとスーベラは僕の最初からの友人で二人ともヒンドゥー教徒が多いインドでは少数派のシーク教徒です。人間はすべて平等であるという考えからシーク教徒はみな名前にシンが付き、その戒律からターバンを巻き髭をそらないのが外見上の特徴です。もっともアルワリアの弟のバトルのように最近の若い人はあまり戒律を気にしないようです。

彼らはタクシー運転手ですが、その仕組みは車を持っているボスから月極めで車を借ります。ガソリン代、修理代は自分持ちですが売り上げはすべて自分の物になります。ですからお客の少ない月は夜も寝ずに働くのです。日本のように流しで客を拾うことはせず、ホテルの駐車場で待機し呼ばれたら客を乗せるようになっています。半日待っても客を乗せられない時もあるそうです。もし病気で働けない時はどうするのかと聞いたら、その日は新米の運転手に1日くらいで貸すのだそうです。まだボスから車を借りられない若い運転手がこうした仕事を待っているのです。

最初の頃、呼んで貰ったタクシーがアルワリアでそれ以来いつも彼の車を使うようになり友達を連れて行くときはスーベラが加わります。共に家族を北のパンジャブ州に残してデリーに出稼ぎに来ているのですが、時々安い長距離バスで故郷に帰るようです。そしていずれ自分の車を持ちたいというのがアルワリアの口癖でした。

自分の車で稼ぐのと借りるのでは天地ほどの差があり、自分の車を持てばそれを増やしていくことはさほど難しくはないのですが、最初の一步である自前の車までが大変な距離なのです。

スーベラは割合のん気ですがアルワリアは真面目な堅物です。スーベラはピザというものがあるらしいというので、ピザ屋につれて行ったら食べ過ぎて苦しくなりもうピザは御免だと言うし、アルワリアに酒を買ってあげようと酒屋に行ったとき遠慮して安い酒を選ぼうとするので、僕が冗談でもっと安いウイスキーをすすめたら彼いわく「これはデンジャラスです」と真面目な顔をしていました。おもしろい二人なのです。

